

2018/8/17

柏の景気情報（平成30年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年7月分）

○ 調査期間：平成30年7月26日～平成30年8月6日

○ 調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	19	43.2%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	22	51.2%
サービス	36	14	38.9%

○ 調査方法と調査表：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年7月の調査結果のポイント】

《業況DIは2か月連続で悪化。先行きも懸念材料払拭できず悪化の見通し》

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.9(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が9.8ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲25.0(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同±0.0)、卸小売業▲54.5(同▲39.1)、サービス業▲14.2(同▲13.3)である。

【建設業】からは、「毎年平均を上回る売上高だが、今年度は大幅な減少となった。作業員不足に加え想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず工程の遅れが生じた。当社でも施工が出来ず売上減となったが、工期延長は見込めないため今後の増員が必至となり採算減少が予想される」(職別工事業)、「曇表のいぐさの香りが良いとインバウンド向けに畳敷物と畳縁縁の大量注文あり。今後継続受注があることを心から祈る」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「取引先からの注文数が減っている」(印刷業)、「自動車の自動ブレーキ等、安全装置の普及で衝突事故が減り始め、外装部品(板金部品)の需要が減ってきた」(自動車付属品製造業)、「主材料は国際価格の下落により値下がり。医療向け製品出荷は堅調」(特殊産業用機械)、「原材料の高騰が止まらない状態で仕入れ価格に大きな影響が出ている。LMガイドの入手性については未だに改善が見られない」(機械・同部品製造業)、「気候変動による経済への影響は多大である。今までの概念がポールシフトする感がある」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「メーカーは夏物商品の仕入激減で諦めムード。残暑が残れば秋物にも大きく影響しそう」(婦人・子供服小売業)、「日本ワインブームのおかげで、日本ワインの新酒の受注率が昨年より上回っている。秋からの商売に好機到来の予測」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「限りなく続く米中貿易船戦争。しかし中国での住宅インフレ・GDPの頭打ちがローブローとして、かつての日本同様の懸念を抱く。国内を見渡せば西日本の大災害を起点に流通のブロックから発生する経済低下を想定する。9月と11月の日米トップ選挙を注視しつつトランプ流なら最後に中国と話し合い解決も考えられる。新号年新卒の就職率はすでに70%と好調も大手企業中心で相変わらずの一方通行。やはりAI・IOTを取り入れる世界の流れに即応しないと。オリンピックに向けオンリーワン企業に脱皮を」(投資顧問)、「従業員は足りているが資格を有し頭(責任者)になる者がいない、育てるのに2~3年有する」(飲食料品小売業)、「購入希望のお客様は安定している。条件の良い駅から近い物件は売りに出すと早期に売却になっている。相続による売却は少しずつ増加」(不動産管理業)、「2・8(2月8月)は全体的に動かず。時勢足踏み状態」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎猛暑

各業種より、「猛暑でエアコンの動きが活発。工事関連はこの暑さで能率が落ちた」(電気工事業)、「想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず、工程の遅れが生じた」(職別工事業)、「猛暑の影響で季節需要が急激に増加となり業界全体に品薄感のある商材も出てきた」(自動車付属品製造業)、「高温化が影響し、商店街への来街者数極端に少ない」(婦人・子供服小売業)、「前半は売上順調だったが、暑さが厳しくなってから外出が少なく急激に悪化。気候変化に身体がついていかないのか、これからの天候で大きく変わりそう」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「猛暑のため人出が少なかった。暑すぎるため回転率が悪かった」(カフェ)、「猛暑による昼間の来客数が減少。その分夕方以降の客足が増えるも全体的には来客数が昨年より減少」(菓子・パン小売業)、「猛暑のせいでワインが売れない。どこの酒売場もビールかレモンハイが人気の集中であり、昨年同月比較が下落」(食料・飲料卸売業)、「酷暑の影響で、屋席の予約キャンセルなどで客数減による売上高減少」(日本料理)、「猛暑の影響が朝と夕に来客があるだけで閑散としている。客単価も低く近年にない不況」(飲食料品小売業)、「業況は暑さによる影響で動きがにぶい」(不動産管理業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「予定工事が低め受注だったが、作業員不足に加え想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず、工程の遅れが生じた」(職別工事業)、「業界全体として相変わらず人材不足が続いている」(自動車付属品製造業)、「採用を続けるが応募が少ない状況」(各種商品小売業)、「人手不足・運賃アップの影響が強く出てきた。人手不足から製造が間に合わないとの事で来春用(6ヶ月先)の発注催促が例年より2ヶ月ほど早くきている」(飲食料品小売業)、「人手不足解消が急務」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
3月	▲11.4	▲11.1	±0.0	▲26.0	±0.0
4月	▲12.8	△5.2	△7.6	▲34.7	▲20.0
5月	▲9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲6.6
6月	▲21.1	±0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
7月	▲30.9	▲21.0	▲25.0	▲54.5	▲14.2
見通し	▲19.7	▲15.7	±0.0	▲36.6	▲21.4

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.9(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が9.8ポイント拡大した。

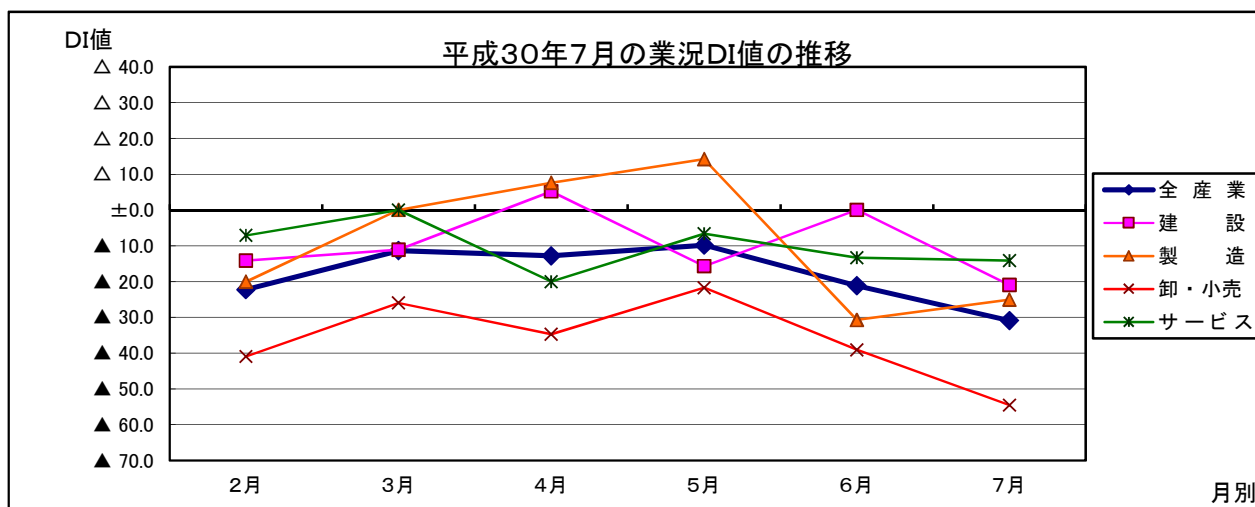
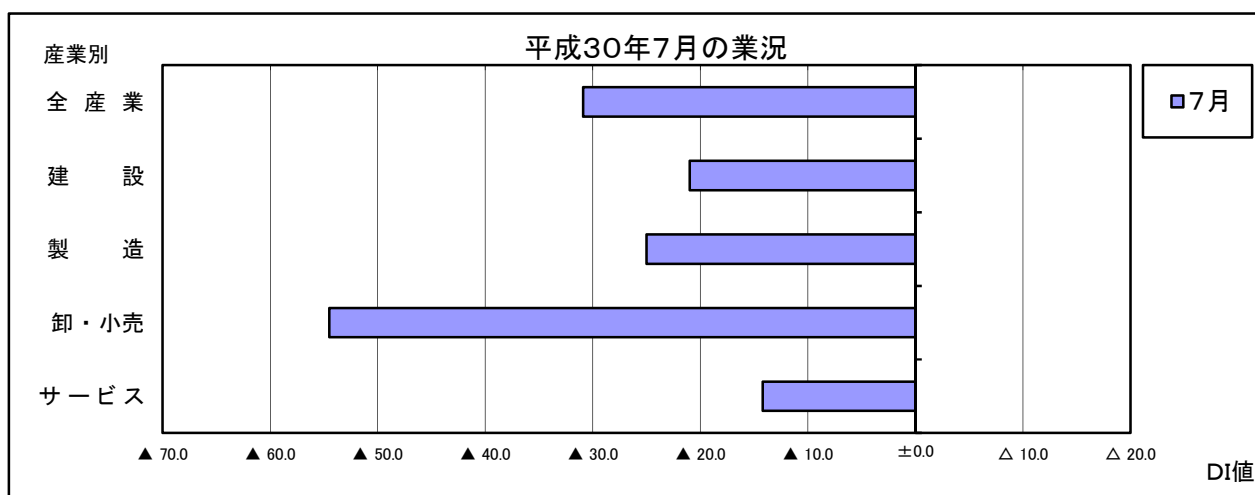
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲25.0(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同±0.0)、卸小売業▲54.5(同▲39.1)、サービス業▲14.2(同▲13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.7(前月水準▲18.3)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲7.6)、卸小売業▲36.3(同▲43.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲6.6)、建設業▲15.7(同▲5.0)である。

平成30年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月～10月(7月～9月)
全産業	▲22.2	▲11.4	▲12.8	▲9.8	▲21.1	▲30.9	▲19.7(▲18.3)
建設	▲14.2	▲11.1	△5.2	▲15.7	±0.0	▲21.0	▲15.7(▲5.0)
製造	▲20.0	±0.0	△7.6	△14.2	▲30.7	▲25.0	±0.0(▲7.6)
卸・小売	▲40.9	▲26.0	▲34.7	▲21.7	▲39.1	▲54.5	▲36.3(▲43.4)
サービス	▲7.1	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲13.3	▲14.2	▲21.4(▲6.6)



【平成30年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22. 5(前月水準▲8. 4)となり、マイナス幅が14. 1ポイント拡大した。

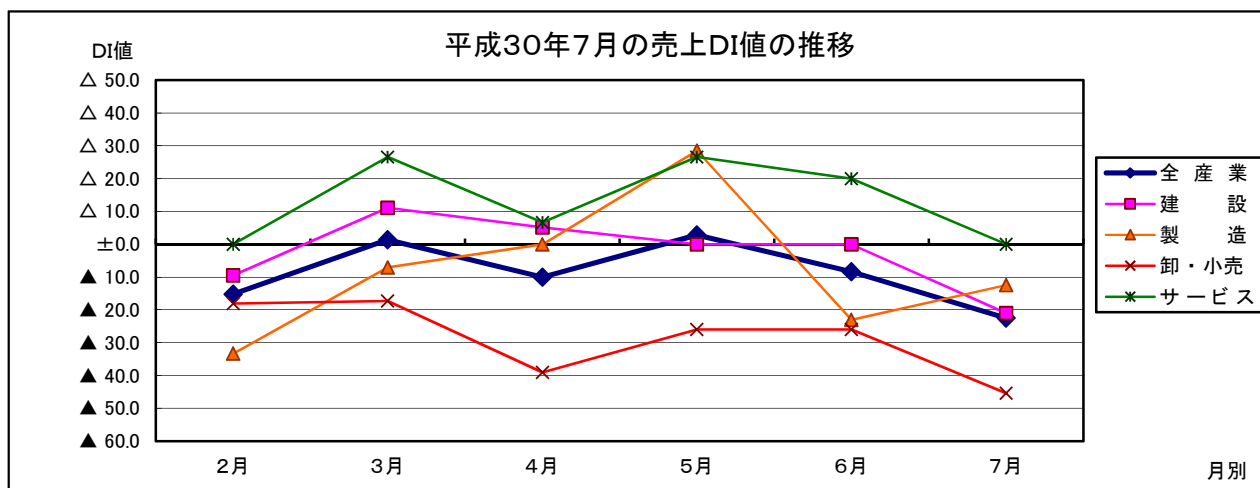
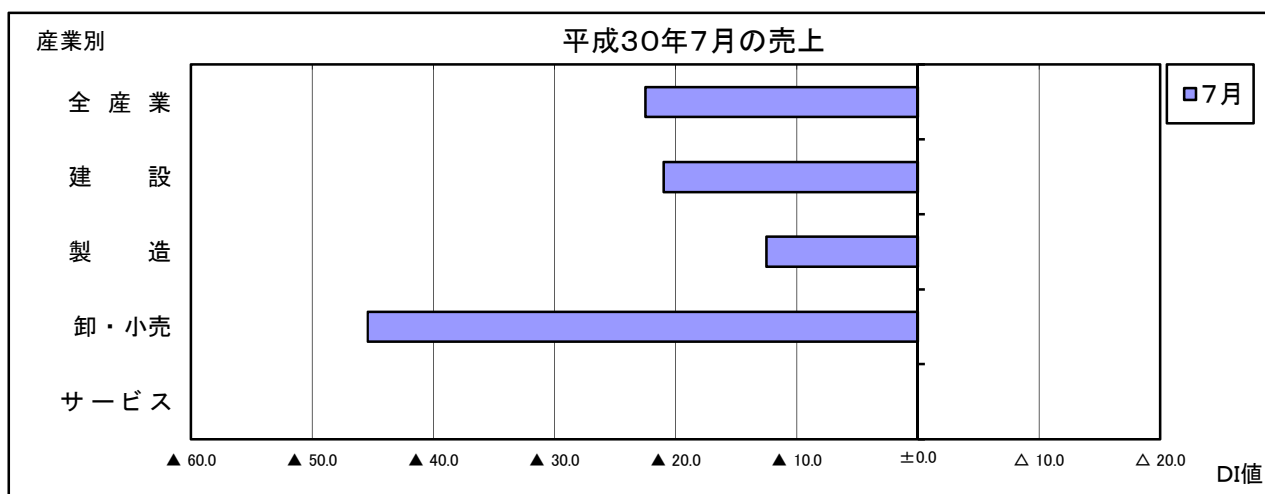
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲12. 5(同▲23. 0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0. 0(同△20. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21. 0(同±0. 0)、卸小売業▲45. 4(同▲26. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11. 2(前月水準▲11. 2)となり、マイナス幅は変わらない見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0. 0(同▲13. 3)、卸小売業▲36. 6(同▲47. 8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△6. 2(同△7. 6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5. 2(同△20. 0)である。

平成30年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月～10月(7月～9月)
全 産 業	▲ 15.2	△ 1.4	▲ 10.0	△ 2.8	▲ 8.4	▲ 22.5	▲ 11.2 (▲ 11.2)
建 設	▲ 9.5	△ 11.1	△ 5.2	±0.0	±0.0	▲ 21.0	▲ 5.2 (△ 20.0)
製 造	▲ 33.3	▲ 7.1	±0.0	△ 28.5	▲ 23.0	▲ 12.5	△ 6.2 (△ 7.6)
卸・小売	▲ 18.1	▲ 17.3	▲ 39.1	▲ 26.0	▲ 26.0	▲ 45.4	▲ 36.3 (▲ 47.8)
サ ー ビ ス	±0.0	△ 26.6	△ 6.6	△ 26.6	△ 20.0	±0.0	±0.0 (▲ 13.3)



【平成30年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.3(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅は15.4ポイント拡大した。

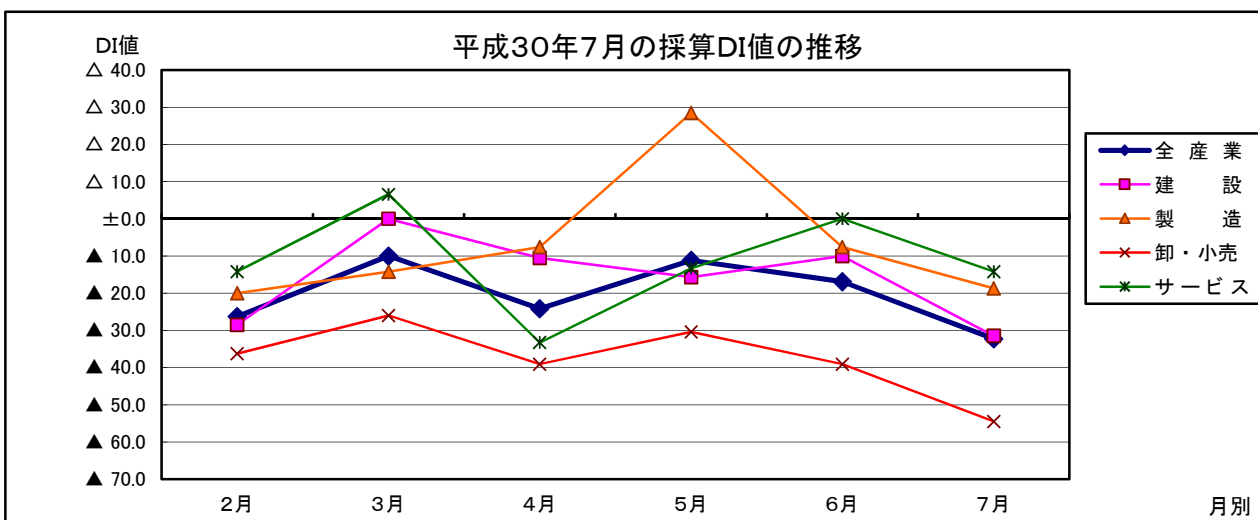
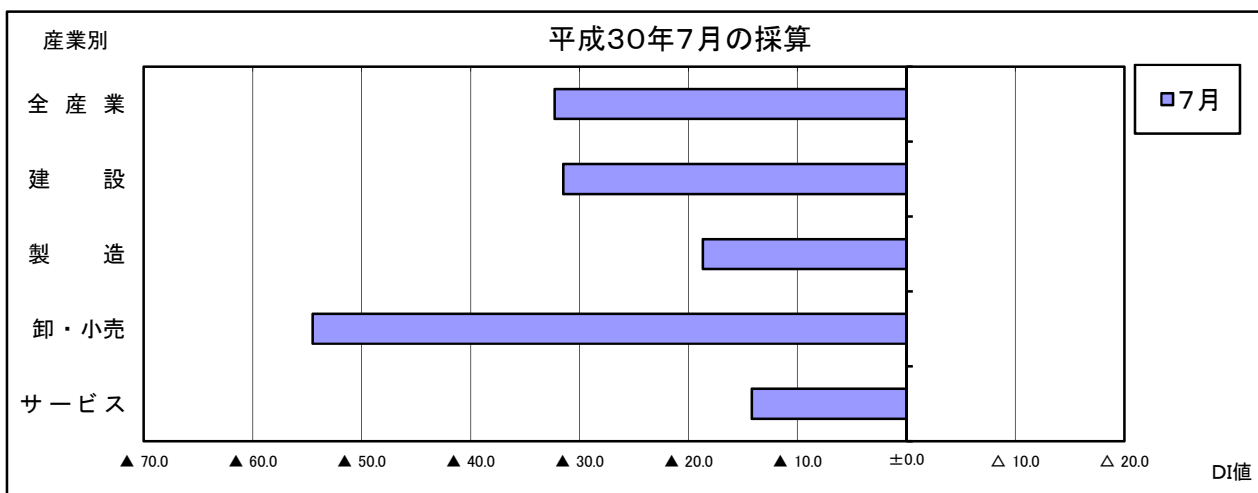
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲31.5(同▲10.0)、卸小売業▲54.5(同▲39.1)、サービス業▲14.2(同±0.0)、製造業▲18.7(同▲7.6)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.4(前月水準▲19.7)であり、マイナス幅が4.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲40.9(同▲56.5)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲14.2(同▲6.6)である。

平成30年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月～10月(7月～9月)
全産業	▲26.3	▲10.0	▲24.2	▲11.2	▲16.9	▲32.3	▲15.4(▲19.7)
建設	▲28.5	±0.0	▲10.5	▲15.7	▲10.0	▲31.5	±0.0(±0.0)
製造	▲20.0	▲14.2	▲7.6	△28.5	▲7.6	▲18.7	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲36.3	▲26.0	▲39.1	▲30.4	▲39.1	▲54.5	▲40.9(▲56.5)
サービス	▲14.2	△6.6	▲33.3	▲13.3	±0.0	▲14.2	▲14.2(▲6.6)



【平成30年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35. 2(前月水準▲43. 6)となり、マイナス幅が8. 4ポイント拡大した。

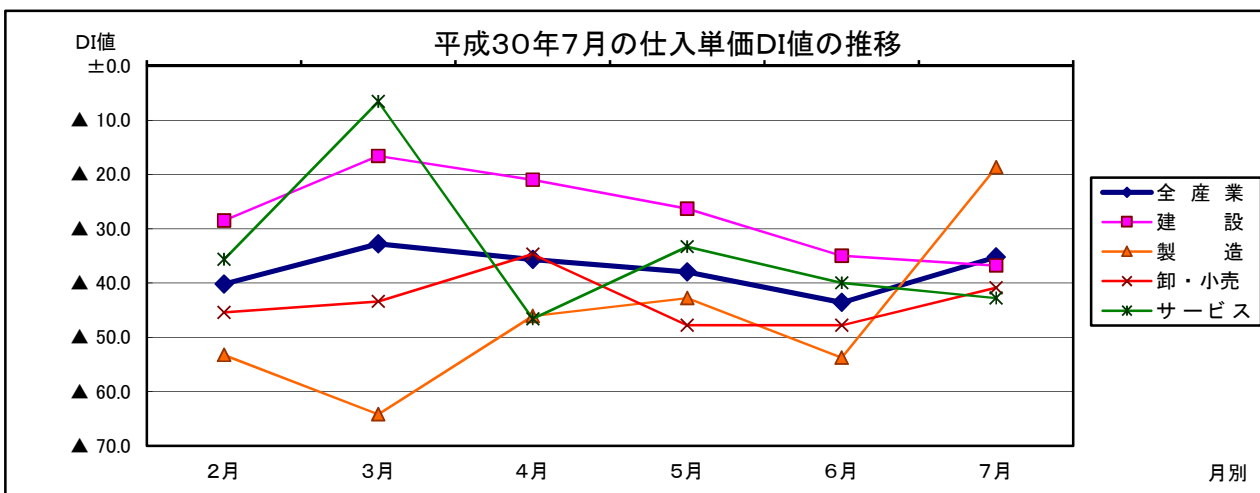
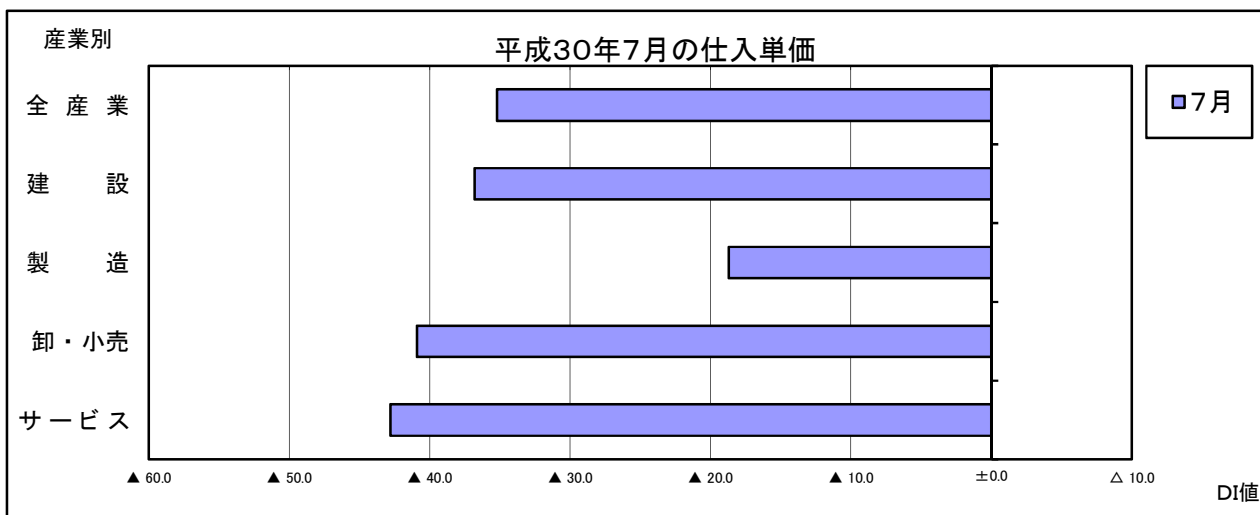
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲18. 7(同▲53. 8)、卸小売業▲40. 9(同▲47. 8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42. 8(同▲40. 0)、建設業▲36. 8(同▲35. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲42. 2(前月水準▲38. 0)となり、マイナス幅が4. 2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲37. 5(同▲38. 4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35. 7(同▲26. 6)、卸小売業▲50. 0(同▲43. 4)、建設業▲42. 1(同▲40. 0)である。

平成30年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月～10月(7月～9月)
全 産 業	▲ 40.2	▲ 32.8	▲ 35.7	▲ 38.0	▲ 43.6	▲ 35.2	▲ 42.2 (▲ 38.0)
建 設	▲ 28.5	▲ 16.6	▲ 21.0	▲ 26.3	▲ 35.0	▲ 36.8	▲ 42.1 (▲ 40.0)
製 造	▲ 53.3	▲ 64.2	▲ 46.1	▲ 42.8	▲ 53.8	▲ 18.7	▲ 37.5 (▲ 38.4)
卸・小売	▲ 45.4	▲ 43.4	▲ 34.7	▲ 47.8	▲ 47.8	▲ 40.9	▲ 50.0 (▲ 43.4)
サ ー ビ ス	▲ 35.7	▲ 6.6	▲ 46.6	▲ 33.3	▲ 40.0	▲ 42.8	▲ 35.7 (▲ 26.6)



【平成30年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△19.7(前月水準△28.1)となり、プラス幅が8.4ポイント縮小した。

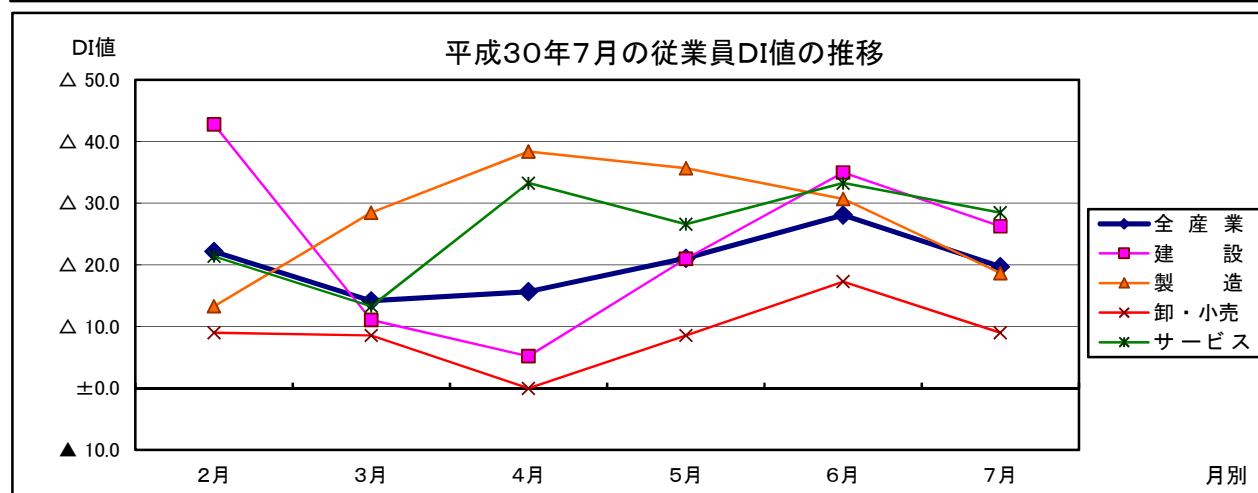
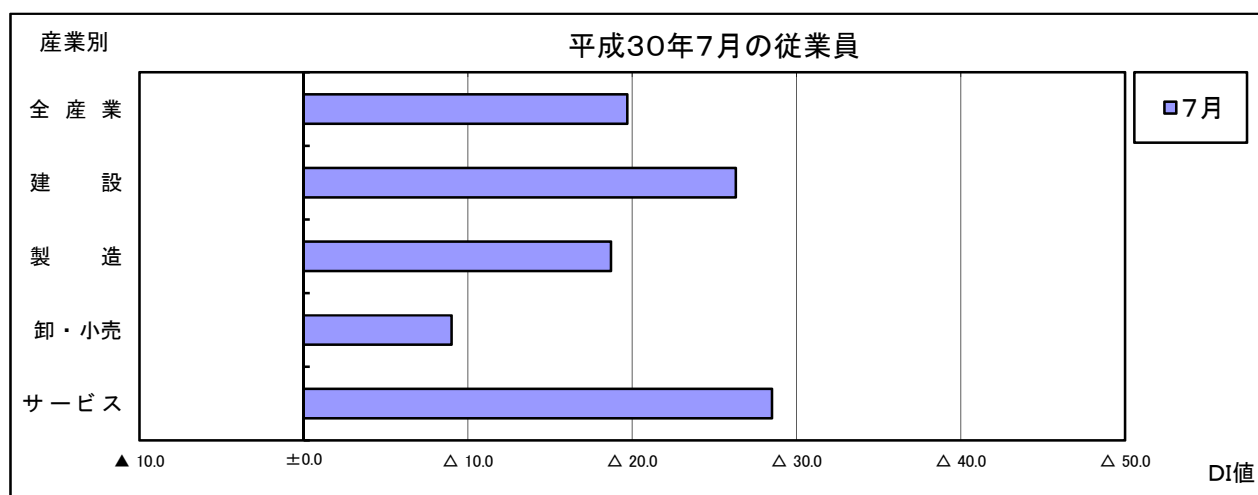
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業△18.7(同△30.7)、建設業△26.3(同△35.0)、卸小売業△9.0(同△17.3)、サービス業△28.5(同△33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.1(前月水準△22.5)であり、プラス幅が1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△28.5(同△13.3)、製造業△25.2(同△23.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△21.0(同△35.0)、卸小売業△13.6(同△17.3)である。

平成30年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月～10月(7月～9月)
全産業	△22.2	△14.2	△15.7	△21.1	△28.1	△19.7	△21.1(△22.5)
建設	△42.8	△11.1	△5.2	△21.0	△35.0	△26.3	△21.0(△35.0)
製造	△13.3	△28.5	△38.4	△35.7	△30.7	△18.7	△25.0(△23.0)
卸・小売	△9.0	△8.6	±0.0	△8.6	△17.3	△9.0	△13.6(△17.3)
サービス	△21.4	△13.3	△33.3	△26.6	△33.3	△28.5	△28.5(△13.3)



【平成30年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.9(前月水準▲4.2)となり、マイナス幅が12.7ポイント拡大した。

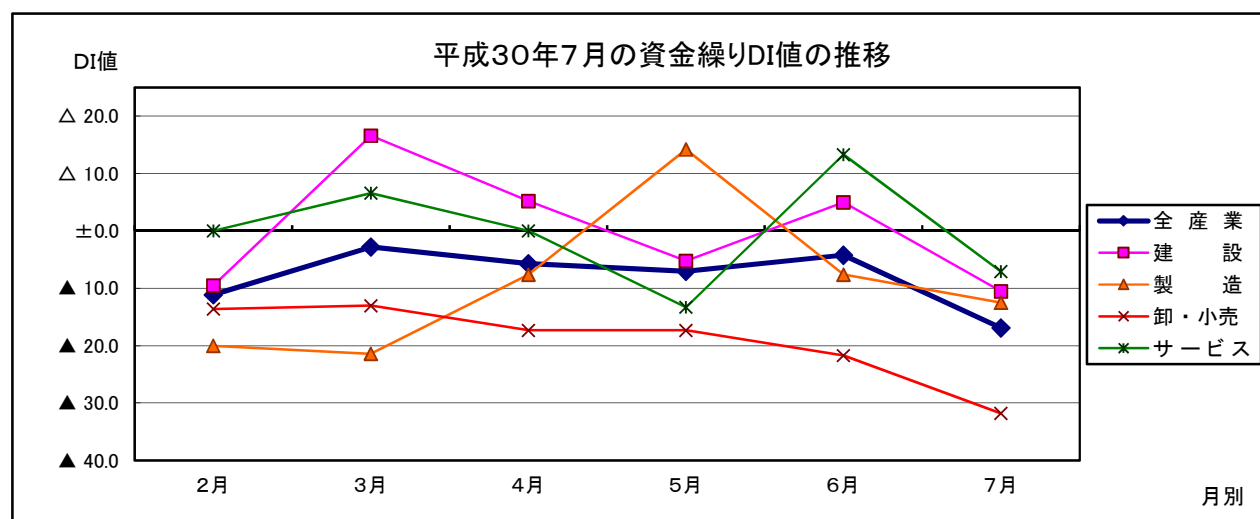
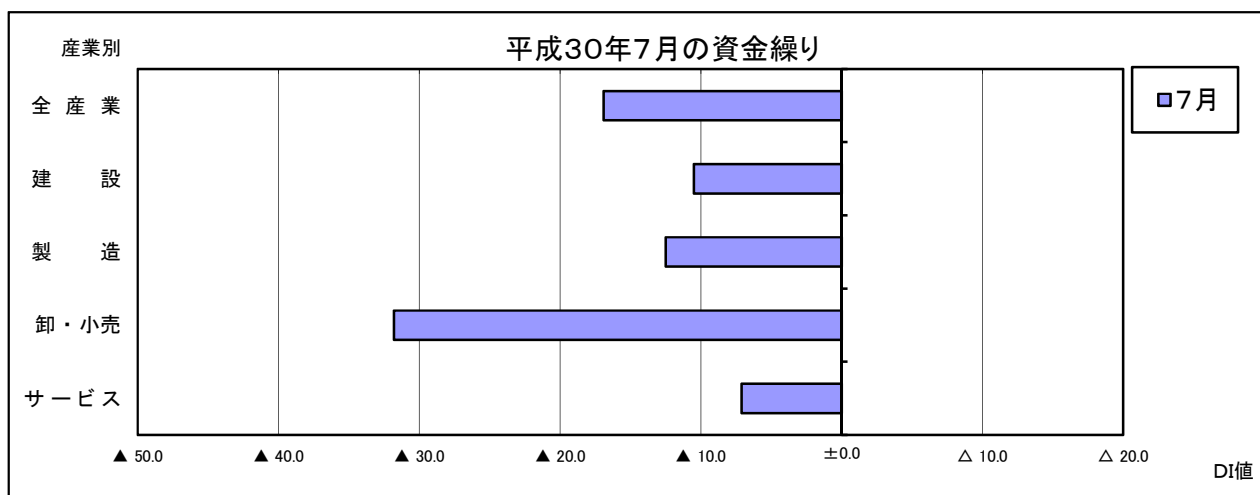
業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.1(同△13.3)、建設業▲10.5(同△5.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲31.8(同▲21.7)、製造業▲12.5(同▲7.6)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.4(前月水準▲4.2)となり、マイナス幅が11.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△6.2(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲15.7(同△15.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.3(同▲26.0)、サービス業▲7.1(同±0.0)である。

平成30年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月～10月(7月～9月)
全産業	▲11.1	▲2.8	▲5.7	▲7.0	▲4.2	▲16.9	▲15.4(▲4.2)
建設	▲9.5	△16.6	△5.2	▲5.2	△5.0	▲10.5	▲15.7(△15.0)
製造	▲20.0	▲21.4	▲7.6	△14.2	▲7.6	▲12.5	△6.2(±0.0)
卸・小売	▲13.6	▲13.0	▲17.3	▲17.3	▲21.7	▲31.8	▲36.3(▲26.0)
サービス	±0.0	△6.6	±0.0	▲13.3	△13.3	▲7.1	▲7.1(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.5	▲ 11.2	▲ 32.3	▲ 15.4	▲ 35.2	▲ 42.2	△ 19.7	△ 21.1
建設	▲ 21.0	▲ 5.2	▲ 31.5	±0.0	▲ 36.8	▲ 42.1	△ 26.3	△ 21.0
製造	▲ 12.5	△ 6.2	▲ 18.7	±0.0	▲ 18.7	▲ 37.5	△ 18.7	△ 25.0
卸・小売	▲ 45.4	▲ 36.3	▲ 54.5	▲ 40.9	▲ 40.9	▲ 50.0	△ 9.0	△ 13.6
サービス	±0.0	±0.0	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 42.8	▲ 35.7	△ 28.5	△ 28.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 30.9	▲ 19.7	▲ 16.9	▲ 15.4
建設	▲ 21.0	▲ 15.7	▲ 10.5	▲ 15.7
製造	▲ 25.0	±0.0	▲ 12.5	△ 6.2
卸・小売	▲ 54.5	▲ 36.3	▲ 31.8	▲ 36.3
サービス	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 7.1	▲ 7.1

【平成30年7月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	猛暑でエアコンの動き活発。工事関連はこの暑さで能率が落ちた。	猛暑	電気工事業
	毎年7月は月平均を上回る売上高があるが今年度は大幅な減少となった。7月の予定工事そのものが低め受注だったが、作業員不足に加え想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず、工程の遅れが生じたようだ。そのため当社でも施工が出来ず売上減となったが、工期延長は見込れないため今後の増員が必至となり採算減少が予想される。	売上減少 人手不足 猛暑	その他の職別工事業
	畳表のいぐさの香りが良いとインバウンド向けに畳敷物と畳縁縁の大量注文あり。今後継続受注があることを心から祈ります。	インバウンド	内装工事業
製造業	取引先からの注文数が減っている	売上減少	印刷業
	業界全体として相変わらず人材不足が続いている。猛暑の影響で季節需要が急激に増加となった。業界全体に品薄感のある商材も出てきた。自動車の自動ブレーキ等、安全装置の普及で衝突事故が減り始め、外装部品(板金部品)の需要が減ってきた。	人手不足 猛暑 自動車安全装置	自動車付属品製造業
	主材料は国際価格の下落により値下がり。医療向け製品出荷は堅調。	材料値下げ	特殊産業用機械
	原材料の高騰が止まらない状態で仕入れ価格に大きな影響が出ている。LMガイドの入手性については未だに改善が見られない。	材料高騰	その他の機械・同部品製造業
	気候変動による経済への影響は多大である。今までの概念がボールシフトする感がある。	気候変動	印刷業
卸小売	高温化がもたらしている。商店街への来街者数極端に少ない。メーカーには夏物商品の仕入激減で諦めムード。残暑が残れば秋物にも大きく影響しそう。	猛暑 季節商品	婦人・子供服小売業
	前半は売上順調でしたが、暑さが厳しくなってからは外出が少なく急激に悪化。気候の変化に身体がついていけないのか、これからの天候で大きく変わりそうです。	猛暑 売上減少	時計・眼鏡・光学機械小売業
	採用を続けるが応募が少ない状況。店舗の老朽化が深刻な課題。	人手不足 建物老朽	その他の各種商品小売業
	猛暑のため人出が少なかった。暑すぎるため回転率が悪かった(カフェ)	猛暑	その他の各種商品小売業
	猛暑による屋間のお客様の来店が減少。その分夕方以降の客足が増えるも全体的には来客数が昨年より減少。	猛暑 客数減少	菓子・パン小売業
	猛暑のせいでワインが売れない。どこの酒売場もビールかレモンハイが人気の集中であり、昨年同月比較が下落している。しかし、日本ワインブームのおかげで、日本ワインの新酒の受注率が昨年より上回っている。秋からの商売に好機到来の予測。	猛暑 売上減少	食料・飲料卸売業
サービス業	酷暑の影響で、宴席の予約のキャンセルなどで客数減による売上高減少。	猛暑 売上減少	日本料理
	限りなく続く米中貿易船戦争。しかし中国での住宅インフレ・GDPの頭打ちがロープローとして、かつての日本同様の懸念を抱く。国内を見渡せば西日本の大災害を起点に流通のブロックから発生する経済低下を想定する。9月と11月の日米トップ選挙を注視しつつトランプ流なら最後に中国と話し合い解決も考えられる。新号年卒の就職率はすでに70%と好調も大手企業中心で相変わらずの一方通行。やはりAI・IoTを取り入れる世界の流れに即応しないと。オリンピックに向けオンリーワン企業に脱皮を。	西日本豪雨 就職好調	投資顧問
	人手不足・運賃アップの影響が強くなってきた。紙製品や小物衣料(安全帽子他)でこの秋より値上げ通達あり。人手不足から製造が間に合わないとの事で来春用(6ヶ月先)の発注催促がきている(例年より2ヶ月ほど早い)猛暑の影響か朝と夕に来客があるだけで閑散としている。客単価も低く近年にない不況です。従業員は足りているが資格を有し頭(責任者)になる者がいない、育てるのに2~3年有する。	人手不足 運賃値上げ 仕入値上げ 猛暑	その他の飲食料品小売業
	人手不足解消が急務。	人手不足	一般貨物自動車運送業
	購入希望のお客様は安定しています。条件の良い駅から近い物件は売りに出すと早期に売却になっています。相続による売物は少しづつ増えています。業況としては暑さによる影響で動きはにぶいです。	不動産好調 猛暑	不動産管理業
	2・8(2月8月)は全体的に動かず。時勢足踏み状態かと。	2・8不調	ソフトウェア業

◎猛暑

各業種より、「猛暑でエアコンの動きが活発。工事関連はこの暑さで能率が落ちた」(電気工事業)、「想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず、工程の遅れが生じた」(職別工事業)、「猛暑の影響で季節需要が急激に増加となり業界全体に品薄感のある商材も出てきた」(自動車付属品製造業)、「高温化が影響し、商店街への来街者数極端に少ない」(婦人・子供服小売業)、「前半は売上順調だったが、暑さが厳しくなってから外出が少なく急激に悪化。気候変化に身体がついていかないのか、これからの天候で大きく変わりそう」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「猛暑のため人出が少なかった。暑すぎるため回転率が悪かった」(カフェ)、「猛暑による昼間の来客数が減少。その分夕方以降の客足が増えるも全体的には来客数が昨年より減少」(菓子・パン小売業)、「猛暑のせいでワインが売れない。どこの酒売場もビールかレモンハイが人気の集中であり、昨年同月比較が下落」(食料・飲料卸売業)、「酷暑の影響で、昼席の予約キャンセルなどで客数減による売上高減少」(日本料理)、「猛暑の影響か朝と夕に来客があるだけで閑散としている。客単価も低く近年にない不況」(飲食料品小売業)、「業況は暑さによる影響で動

◎人手不足

各業種より、「予定工事が低め受注だったが、作業員不足に加え想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず、工程の遅れが生じた」(職別工事業)、「業界全体として相変わらず人材不足が続いている」(自動車付属品製造業)、「採用を続けるが応募が少ない状況」(各種商品小売業)、「人手不足・運賃アップの影響が強く出てきた。人手不足から製造が間に合わないとの事で来春用(6ヶ月先)の発注催促が例年より2ヶ月ほど早くきている」(飲食料品小売業)、「人手不足解消が急務」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

平成30年7月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.9に対し、「CCI-LOBO」が▲16.7で柏の方がマイナス幅が14.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業・サービス業であり、製造業・卸小売は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.5に対し、「CCI-LOBO」が▲11.6で柏の方がマイナス幅が10.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業であり、建設業・卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.3に対し、「CCI-LOBO」が▲16.4で柏の方がマイナス幅が15.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業・サービス業であり、建設業・卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲35.2に対し、「CCI-LOBO」が▲43.3で柏の方がマイナス幅が8.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△19.7に対し、「CCI-LOBO」が△21.0で柏の方がプラス幅が1.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.9に対し、「CCI-LOBO」が▲9.0で柏の方がマイナス幅が7.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。

平成30年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 30.9	 ▲ 21.0	 ▲ 25.0	 ▲ 54.5	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 16.7	 ▲ 11.5	 ▲ 11.5	 ▲ 29.0	 ▲ 13.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.5	 ▲ 21.0	 ▲ 12.5	 ▲ 45.4	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.6	 ▲ 9.8	 ▲ 2.6	 ▲ 24.4	 ▲ 10.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.3	 ▲ 31.5	 ▲ 18.7	 ▲ 54.5	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 16.4	 ▲ 17.1	 ▲ 13.0	 ▲ 24.4	 ▲ 13.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 35.2	 ▲ 36.8	 ▲ 18.7	 ▲ 40.9	 ▲ 42.8
CCI-LOBO	 ▲ 43.3	 ▲ 45.5	 ▲ 50.4	 ▲ 38.4	 ▲ 40.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 19.7	 26.3	 18.7	 9.0	 28.5
CCI-LOBO	 21.0	 26.9	 15.7	 20.1	 24.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.9	 ▲ 10.5	 ▲ 12.5	 ▲ 31.8	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 9.0	 ▲ 6.6	 ▲ 7.0	 ▲ 14.8	 ▲ 10.0

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - L O B O

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：平成30年7月13日～20日

調査対象：全国の423商工会議所が3740企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、天候要因もあり3カ月連続の悪化。先行きも不透明感残る

7月の全産業合計の業況DIは、▲16.7と、前月から▲1.3ポイントの悪化。原材料費、燃料費上昇による負担増や深刻な人手不足の影響により、製造業を中心に広く業況感が悪化した。また、記録的な猛暑に伴い、夏物商材の需要拡大を指摘する声が小売業から聞かれた一方、サービス業からは猛暑や大雨などの天候不順により客足が減少したとの声が聞かれた。消費者の節約志向も根強く、足踏み状況が続いていた中小企業の景況感は、足元で弱い動きがみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲15.4（今月比+1.3ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。消費の持ち直しやインバウンドを含めた夏の観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推

移への期待感がうかがえる。

他方、人手不足の影響の深刻化や、燃料費・原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、米国の保護主義的な関税措置に端を発する貿易摩擦の影響を懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業界別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、小売業で改善、サービス業でほぼ横ばい、その他の3業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事が少なく、同業他社との受注価格競争が厳しいほか、鉄鋼や木材などの建設資材価格や、人件費・外注費の上昇により、売上・採算ともに悪化した」（一般工事業）、「宿泊施設や工場・研究施設といった民間工事が多く、売上は堅調。従業員のモチベーション向上を

図るため、ベースアップや賞与の増額を実施した」（電気工事業）

【製造業】「小麦粉などの原材料価格や、燃料費の上昇により、収益が圧迫されているほか、個人消費の低迷や、記録的な猛暑の影響などから、受注が減少し、売上も悪化した」（食料品製造業）、「中国を中心とした外需が好調なため、売上は改善。さらなる売上増と人手不足の解消を目的に、新規設備投資を計画している」（産業用機械製造業）

【卸売業】「飲食料品価格や運送費の上昇から、採算確保に苦戦していることに加え、猛暑や大雨の影響で農産物価格が上昇すれば、更なる採算悪化や、消費意欲の減退が懸念される」（飲食料品卸売業）、「自動車関連の製造業を中心に引き合いが多く、受注は好調。手持案件は豊富で、今後も業績の改善が見込めるが、米国の端を発する貿易摩擦の影響が顕在化すれば、売上減は避けられない」（金属製品等卸売業）

【小売業】「堅調なインバウンド需要に加え、記録的な猛暑の影響から、日傘や帽子などの夏物商材の売れ行きが良く、売上改善となった」（百貨店）、「ボーナス商戦のシーズンだが、引き続き消費者の財布の紐は堅く、売上は伸び悩んだ。人材確保にも苦戦しており、求人募集を続けるも、一向に応募が無い」（宝飾雑貨等小売業）

【サービス業】「夏物商材や半導体部材等を中心に、配送需要は好調。だが、ドライバ―不足は深刻なため、配送日数を延長することで、何とか対応している」（運送業）、「夏の観光需要を取り込むため、地域を挙げて様々なイベントを企画したが、西日本豪雨の影響で、予約のキャンセルが相次ぎ、大打撃を受けている」（宿泊業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲17.1	▲11.4	▲10.1	▲20.8	▲27.3	▲17.9
3月	▲15.8	▲13.5	▲6.1	▲18.8	▲26.9	▲16.3
4月	▲11.5	▲13.1	0.5	▲18.3	▲25.7	▲7.6
5月	▲13.6	▲14.8	▲5.8	▲19.4	▲26.5	▲7.6
6月	▲15.4	▲10.1	▲6.5	▲17.1	▲32.3	▲12.8
7月	▲16.7	▲11.5	▲11.5	▲18.8	▲29.0	▲13.6
見通し	▲15.4	▲12.2	▲11.7	▲16.3	▲26.7	▲10.8

柏の景気情報

(7月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年7月26日～8月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
3月	▲11.4	▲11.1	± 0.0	▲26.0	± 0.0
4月	▲12.8	△ 5.2	△ 7.6	▲34.7	▲20.0
5月	▲ 9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲ 6.6
6月	▲21.1	± 0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
7月	▲30.9	▲21.0	▲25.0	▲54.5	▲14.2
見通し	▲19.7	▲15.7	± 0.0	▲36.6	▲21.4

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「柏市」の業況

業況D Iは2か月連続で悪化。先行きも懸念材料払拭できず悪化の見通し

7月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.9(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が9.8ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲25.0(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同±0.0)、卸小売業▲54.5(同▲39.1)、サー

ビス業▲14.2(同▲13.3)である。

【建設業】からは、「毎月平均を上回る売上高があるが、今年度は大幅な減少となった。作業員不足に加え想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず工程の遅れが生じた。工期延長は見込みないため今後の増員が必至となり採算減少が予想される」(職別工事業)、「畳表のいぐさの香りが良いとインバウンド向けに畳敷物と畳縁縁の大量注文あり。今後継続受注があることを心から祈る」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「取引先からの注文数が減っている」(印刷業)、「自動車の自動ブレーキ等、安全装置の普及で衝突事故が減り始め、外装部品(鍍金部品)の需要が減ってきた」(自動車付属品製造業)、「主材料は国際価格の下落により値下り。医療向け製品出荷は堅調」(特殊産業用機械)、「原材料の高騰が止まらない状態で仕入価格に大きな影響が出ている。LMガイドの入手性については未だに改善が見られない」(機械・同部品製造業)、「気候変動による経済への影響は多大である。今までの概念がポールシフトする

感がある」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「メーカーは夏物商品の仕入激減で諦めムード。残暑が残れば秋物にも大きく影響しそう」(婦人・子供服小売業)、「日本ワインブームのおかげで、日本ワインの新酒の受注率が昨年より上回っている。秋からの商売に好機到来の予測」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「西日本の大災害を起点に流通のブロックから発生する経済低下を想定。新号年卒の就職率はすでに70%と好調も大手企業中心で相変わらずの一方通行。やはりAI・IOTを取り入れる世界の流れに即応しないと。オリンピックに向けてオンラインワン企業に脱皮を」(投資顧問)、「従業員は足りているが資格を有し頭(責任者)になる者がいない、育てるのに2～3年有する」(飲食料品小売業)、「購入希望のお客様は安定している。条件の良い駅から近い物件は売りに出すと早期に売却になっている。相続による売却は少しずつ増加」(不動産管理業)、「2・8(2月8日)は全体的に動かず。時勢足踏み状態」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

【七月の景気キーワード】
◎猛暑
各業種より、「猛暑でエアコンの動きが活発。工事関連はこの暑さで能率が落ちた」(電気工事業)、「想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず、工程の遅れが生じた」(職別工事業)、「猛暑の影響で季節需要が急激に増加となり業界全体に品薄感のある商品も出てきた」(自動車付属品製造業)、「高温化が影響し商店街への来街者数極端に少ない」(婦人・子供服小売業)、「前半は売上順調だったが、暑さが厳しくなってきたから外出が少なく急激に悪化。気候変化に身体がついていけないのか、これからの天候で大きく変わりそう」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「猛暑のため人出が少なかった。暑すぎるため回転率が悪かった」(カフェ)、「猛暑による昼間の来客数が減少。その分夕方以降の客足が増えるも全体的には来客数が昨年より減少」(菓子・パン小売業)、「猛暑のせいでワインが売れない。どこの酒売場もビールかレモンハイが人気の集中であり、昨年同月の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業・サービス業であり、製造業・卸小売は10ポイント以上悪い。

理、「猛暑の影響が朝夕に来客があるだけで閑散としている。客単価も低く近年にない不況」(飲食料品小売業)、「業況は暑さによる影響で動きが鈍い」(不動産管理業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「予定工事が低め受注だったが、作業員不足に加え想像以上の暑さのため、現場全体の作業がはかどらず、工程の遅れが生じた」(職別工事業)、「業界全体として相変わらず人材不足が続いている」(自動車付属品製造業)、「採用を続けるが応募が少ない状況」(各種商品小売業)、「人手不足・運賃アップの影響が強く出てきた。人手不足から製造が間に合わないとの事で来春用(6ヶ月先の発注催促が例年より2ヶ月ほど早くきている」(飲食料品小売業)、「人手不足解消が急務」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-TOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲30.9に対し、「CCI-TOBO」が▲16.7で柏の方がマイナス幅が14.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業・サービス業であり、製造業・卸小売は10ポイント以上悪い。